

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月27日現在

機関番号：43605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04387

研究課題名(和文) 教員養成における就職支援の教育効果に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Study on Career Support for Students of Teacher Training Colleges

研究代表者

酒井 真由子 (Sakai, Mayuko)

上田女子短期大学・その他部局等・准教授

研究者番号：30591193

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：大学で提供されている就職支援が、教員養成にどのような質的な影響を及ぼしているのかを実証的に検証することが本研究の課題である。そこで第一に、国立大学教育養成学部の就職支援情報を収集し、特徴的な就職支援を行っている大学の就職支援担当者と教員採用試験を受けた4年生へのインタビュー調査を行った。第二に、国立大学教員養成学部の就職支援組織・部局を対象とした質問紙調査を行った。第三に、教員養成学部の4年生を対象とした意識調査を質問紙形式で行った。大学で提供されている就職支援が学生たちによってどのように利用されているのか、また彼らの意識や行動に対してどのような影響を及ぼしているのかについて検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国の教員養成においては、学校現場における複雑かつ多様な課題に対応するための高度な専門性を持つ教員の育成が求められている。一方、国立大学教員養成学部においては教員供給機関としての実績作りが重要なミッションになっており、教員採用率を上げるために、教員採用試験対策を中心とする就職支援事業が熱心に取り組まれている。本研究は、大学の正規のカリキュラムとしての教員養成プログラムに対し、裏のカリキュラムとしての就職支援の実態を具体的・詳細に調査し、教員就職率を高めるための就職支援の充実が教員養成にどのような質的な影響を及ぼしているのかを実証的に検証することで、教員養成を担う大学の役割を見直すものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the current trend of career support activities for students at teacher training colleges, and to consider its effects on the quality of teacher training. First, we collected relative information on this theme through websites of all national teacher training colleges, and visited some of them to have interviews with the staff in charge of career support service and with some students utilizing that. Second, we did questionnaire survey targeting all national teacher training colleges to get quantitatively detailed contents of career support programs they provide. And third, we also did questionnaire survey targeting senior students of the colleges, to clarify how much they take advantage of the service, and to examine how their professional awareness and attitude are affected by that.

研究分野：教育社会学

キーワード：就職支援 教員就職支援 教員採用試験 教員養成 カリキュラム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

わが国では教職の高度専門職化が叫われ、教員養成を担う大学にはミッションの再定義をはじめ、教職大学院の新設や教職実践演習の実施による教職の質のいっそうの向上と保証が求められている。教職の「高度専門職」化は、一人ひとりの教師に自律した専門職として教育活動に従事することを期待するものである(紅林 2014)。しかし、そうした期待の一方で、学力の全校的な向上と子どもたちへの「適切な」対応が強く求められている学校現場は、組織目標の達成を追究する経営型組織に変容しつつあり(油布 2007)。教師には組織目標を達成する組織の一員として職務を遂行することが求められるようになってきている(油布他 2010)。もちろん、自律性と組織化は単純な 2 項図式ではなく、教師にはその複雑な関係性の中で適切な判断を行うことが求められている。本研究は、現在の我が国の教員養成がこの課題に十分にこたえられるものとなっているかを、カリキュラムレベルで検討しようというものである。

同様の問題関心のもと、油布佐和子を代表とする研究グループ、紅林伸幸を代表とする研究グループは、それぞれの視角(1. 教育改革と教員組織・教師文化の変容、2. 教職志望学生の社会的・政治的社会的化)から教職の高度専門職化の実態を明らかにする取り組みが開始された。彼等の研究は教職課程改革、教員養成改革がどのような教師を育てるものになっているのかを教職課程の授業科目(教育実習を含む)との関連で検討している点を特徴としている。しかし、彼らの研究視角は、近年の大学教育に決定的な影響力を有している最大の要因である就職支援(教員採用試験対策を含む)の影響を射程としていないために、カリキュラムレベルの検討として十分なものではない。

現在、各大学では就職支援に力を入れはじめ、産業界のニーズに合わせたカリキュラムの開発と導入、そしてキャリア教育や就職支援機能の強化が求められている。申請者らの所属大学もその例に漏れず、申請者らはそれぞれ部分的ではあるが、それらの事業に参画している。そこでの経験から、就職支援のプログラムがどのような教師を育てる教育効果を持っているのか、また並行して個別に走っているはずの教職課程の内容とどのような相互浸透を果たしているのかを検討する必要性を共有し、研究チームを組織するに至った。現在、就職支援については、就職活動の早期化や長期化による学業への悪影響を懸念する声が上がっているが、教員養成に限って言えば、教員採用率を高める目的で熱心に行われている面接指導や小論指導の中で、自己主張しない教師、決められたスタイルに忠実な教師(組織人としての専門職性)が育っているのではないかという危惧を持っている。つまり、就職支援が教員養成の陰のカリキュラムとして機能し、教師の質に多大な影響を及ぼしていることが予想されるのである。専門性と自律性を高める教職課程の表のカリキュラムと組織人としての教師を育てる就職支援という裏のカリキュラム、この教職課程を支配する 2 つのカリキュラムが相互にどのように影響し合い、どのような教師を育てているのか、その実態を検討することは、今後ますます高まっていくであろう就職支援へのプレッシャーを教育の一部として対象化し、国際的な動向でもある教職の高度専門職化の要請に真にこたえうる教職課程の実現を目指す大学教育及び教職課程にとって、喫緊の課題なのである。

### 2. 研究の目的

現在、我が国の教員養成・教師教育においては、高度専門職化が求められている。だが、その一方で、大学では就職支援が重要なミッションとなっており、教員養成学部・教職課程においても教員採用率の UP は大学評価にも関わる最重要課題となっている。本研究は、そうした教員就職支援の充実が教員養成にどのような質的な影響を及ぼしているのかを実証的に検証するものである。

本研究では、各大学の教員就職支援の視察調査と、就職支援担当者へのヒアリング、学生への質問紙調査等により、(1)各教員養成学部・教職課程で行われている就職支援の実態を具体的に・詳細に検証し、(2)その就職支援を通じてどのような教師が育っているのか、(3)就職支援の持っている教育効果と教職課程のカリキュラムの持つ教育効果がどのような関係にあるのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究は、教員養成学部・教職課程の就職支援が、どんな教師を育てているのかを検討するものであり、各大学の教職課程の就職支援の実態を具体的に詳細に明らかにする作業とその教育効果(その指導の中で教師になっていく学生たちがどのような態度を身につけているのか)を実証的に検討する作業、教職課程のカリキュラムの教育効果と就職支援の陰の教育効果の関係と教職の高度専門職化の可能性を検討する作業を行うものである。

研究 1 は、各大学の教職課程の就職支援の実態を各大学のホームページからの教職関係の就職支援事業情報の収集、特徴的な就職支援を行っている大学を対象としたインタビュー調査、教授対策(小論文、集団面接、模擬授業の指導)の実際の視察から把握した。

研究 2 では、研究 1 の調査の仮説的論点を改めて計量的なデータとして再検証するために、就職支援の担当教員を対象とした質問紙調査を実施し、国立大学教員養成学部の就職支援の実態を具体的に把握した。

研究 3 では、就職支援の教育効果を実証的に検討するために、教員採用試験が終わった 8 月以降に 4 年生を対象とした質問紙調査を実施した。研究 1、研究 2 の調査とともに、教職課程

のカリキュラムの教育効果と就職支援の陰の教育効果の関係について検討した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究1 各大学の教職課程の就職支援の取り組みに関するインタビュー調査

各教員養成学部で行われている就職支援の実態を検証するうえでの基礎的情報を得るために、4つの国立大学教員養成学部と1つの私立大学教育学部の就職支援担当者と教員採用試験を受けた4年生へのインタビュー調査を行った。また、実際の模擬面接指導の場面やガイダンスなど、学生指導の場面に立ち会った。調査時期は2016年3月から2016年11月までの期間で、我々研究グループの中から複数名がチームを組んで各大学に赴き、就職支援担当の教員(2名から4名)から話を聞いた。また、学生向けの就職関連資料などの提供を受けるとともに、実際の学生指導の場面(模擬面接指導やガイダンス)に立ち合わせてもらう機会を得た。

どの大学でも公立学校教員採用試験対策を念頭においた支援体制が整備されており、組織的な事業として非常に熱心に取り組んでいることが確認できた。一般就職向けの部局とは別に、教員就職支援用の支援室が学部内に設置されており、教職経験者を積極的に活用していた。かつては教員就職に向けた活動は、個々の学生の個人的な責任の領域にとらえられていたが、近年では大学教育の守備範囲として意識されていることが見て取れた。また学生の側も、大学の就職支援室等が実施する支援プログラムへの参加は任意であるにもかかわらず、教職志望者のほとんどがこうした支援プログラムに参加しているということであり、どの大学の支援担当者もこうした取り組みは就職率向上に貢献しているとの認識をもっていた。こうした動向から、教員就職支援プログラムが「準カリキュラム化」していることが示唆された。

##### (2) 研究2 各大学の教職課程の就職支援の実態に関する機関調査

全国の国立大学教員養成学部を対象とした教員就職支援に関する質問紙調査を実施した。調査時期は2017年2月から3月にかけての期間で、全国に44大学ある当該機関の就職支援組織・部局の担当者あてに回答を依頼し、うち34大学から回答を得た。

調査の結果、多くの大学において手厚い教員就職支援態勢が組み立てられている実情が確認された。進路相談窓口を開設し、採用試験を見据えた対策講座が多くの大学で実施されていること、ここでは講座・セミナー形式による筆記試験対策のみならず、個別指導形式による面接試験・模擬授業対策に熱心な取り組みが展開されている実態が明らかとなった。さらに多くの大学が、教員就職向けに特化した支援組織を開設し、当該業務のための専従スタッフを配置していた。そこには定年退職した元校長などの教員経験者が充てられるケースが多く、就職支援の組織体制が整備されている実態が明らかとなった。大学の正規のカリキュラムとしての教員養成プログラムに加え、いまや裏のカリキュラムともいえる教員採用試験対策までもを含めて、大学教育の責任の範囲として考えられるようになってきていると言えよう。

##### (3) 研究3 就職支援の教員養成への教育効果に関する学生調査

国立大学教員養成学部4年生を対象とした質問紙調査(学生調査)を実施し、大学によって提供されている就職支援が実際に学生たちによってどのように利用されているのか、また彼らの意識や行動に対してどのような影響を及ぼしているのかについて検討した。

全国44の国立大学教員養成学部調査協力を依頼し、そのうち10大学の協力を得ることができた。担当責任者に質問紙の配布、回収を委託した。調査対象者の4年生には自記式で回答してもらった。調査期間は2017年9月から2018年1月。配布数は1,000件で、有効回答数は795件、回収率は79.5%であった。

なお、分析の中心となるのは、公立学校の教採試験を経験した者たちの実態であるが、今回収集したサンプルのうち525件(全体の66%)がそれに相当する。その残余カテゴリーである非受験層との比較などを交えながら、就職支援を受けた学生らの行動や意識について検討を加えた。

本調査から見てきたのは、教採試験対策に臨む学生たちの素直でまじめな姿であった。教採試験に強くコミットしている層ほど、大学生活全般にしても、個別の学習分野にしても、教採試験に直接関係する領域に対してこそ顕著な関心を向ける傾向が読み取れた。その反面、社会や政治全般については関心が薄かった。さらに「やりがい指向」「現場指向」のようにポジティブで現状肯定的な教職観を持っている学生のほうが教採試験には前向きで、「自己犠牲」のようなネガティブな教職イメージに囚われた学生は教採試験に対して前向きに取り組まない結果となった。

以上、研究1から研究3の分析結果をもとに、教員養成学部における就職支援の教育効果と教職課程のカリキュラムの教育効果という観点から改めて若干の考察を加えておく。

教員就職支援は、筆記試験等のいわばハード面の準備は学生自身が個人レベルで対応しつつ、面接や模擬授業等のソフト面での準備を大学が組織的にサポートするという、二人三脚のような関係の中で展開されているようだ。教員就職支援においては個別指導形式による面接試験・模擬授業対策に力をいれており、教採試験受験に臨む学生たちも現場で即座に役立つ教育方法や教科教育法、実践的分野の学習に熱心に取り組む傾向があることから、教員就職支援が「即戦力」としての実践的指導力を求める学校現場や社会からの要請に応えるものと言えよう。

一方、教採試験受験に臨む学生たちは社会や政治全般に対して関心が薄い傾向があるが、そ

れは教員を目指す学生の視野の狭さをうかがわせるものであり、将来、教職に就こうとする学生が考える教職の「専門性」の内容が、授業の進め方や生徒指導の方法などの技術的な面に偏りがちであることが示唆される。

教員養成学部である以上は、職業的社會化を教育プログラムの柱に据えることは当然のことである。しかし大学は果たして職業的訓練の単なる「前倒し」の場であってもよいのだろうか。大学でしか学べない知識や思考の技術はきちんと伝えられているのか。就職実績という目先の利害へのこだわりが、教員養成の在り方を損なっている危険性はないか。そういった視点から現状を反省してみる必要もあるはずである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

山口 美和、河野 誠哉、酒井 真由子、西 朋子「大学における教員就職支援の利用実態と教育効果—国立大学教員養成学部4年生への質問紙調査の分析から—」、山梨学院生涯学習センター紀要『大学改革と生涯学習』、第23号、2019年、pp.55-78、査読無

[https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=3629&item\\_no=1&page\\_id=4&block\\_id=82](https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3629&item_no=1&page_id=4&block_id=82)

山口 美和、河野 誠哉、越智 康詞「国立大学教員養成学部における教員就職支援の実態に関する実証的研究」、山梨学院生涯学習センター紀要『大学改革と生涯学習』、第22号、2018年、pp.71-102、査読無

[https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=3546&item\\_no=1&page\\_id=4&block\\_id=82](https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3546&item_no=1&page_id=4&block_id=82)

河野 誠哉、酒井 真由子、山口 美和、越智 康詞、紅林 伸幸「国立大学教員養成学部における教員就職支援の取り組みに関する事例的研究」、山梨学院生涯学習センター紀要『大学改革と生涯学習』、第21号、2017年、pp.65-76、査読無

[https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=3370&item\\_no=1&page\\_id=4&block\\_id=82](https://ygu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3370&item_no=1&page_id=4&block_id=82)

〔学会発表〕(計3件)

酒井 真由子、西 朋子、河野 誠哉、山口 美和「教員養成学部における就職支援の利用実態と教育効果」、日本教育社会学会第70大会、2018年

越智 康詞、河野 誠哉、山口 美和「国立大学教員養成学部における教員就職支援の実態に関する実証的研究」、日本教育学会第76回大会、2017年

山口 美和「学問知と実践知の共創的な越境可能性を問う学校インターンシップの科学」、日本教育心理学会、2016年

〔図書〕(計1件)

山口 美和 他『学校インターンシップの科学 大学の学びと現場の実践をつなぐ教育』、ナカニシヤ出版、2016年、310頁(pp.124-139)

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

越智 康詞(OCHI, Yasushi)

信州大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：80242105

河野 誠哉(KAWANO, Seiya)

山梨学院大学・経営情報学部・教授

研究者番号：00583650

山口 美和(YAMAGUCHI, Miwa)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：80465856

### (2)研究協力者

紅林 伸幸(KUREBAYASHI, Nobuyuki)

西 朋子(NISHI, Tomoko)